



うおぬま通信

第9回

保存版

[発行]新潟県 2021年3月 第9回 魚沼医療再編から5年。求められている新しい取り組みをご紹介します。



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

魚沼基幹病院の令和2年度採用助産師・看護師27名(屋上ヘリポートにて2020年4月撮影)

魚沼医療再編から5年。

求められている新しい取り組みをご紹介します。



魚沼基幹病院 病院長

鈴木 栄一

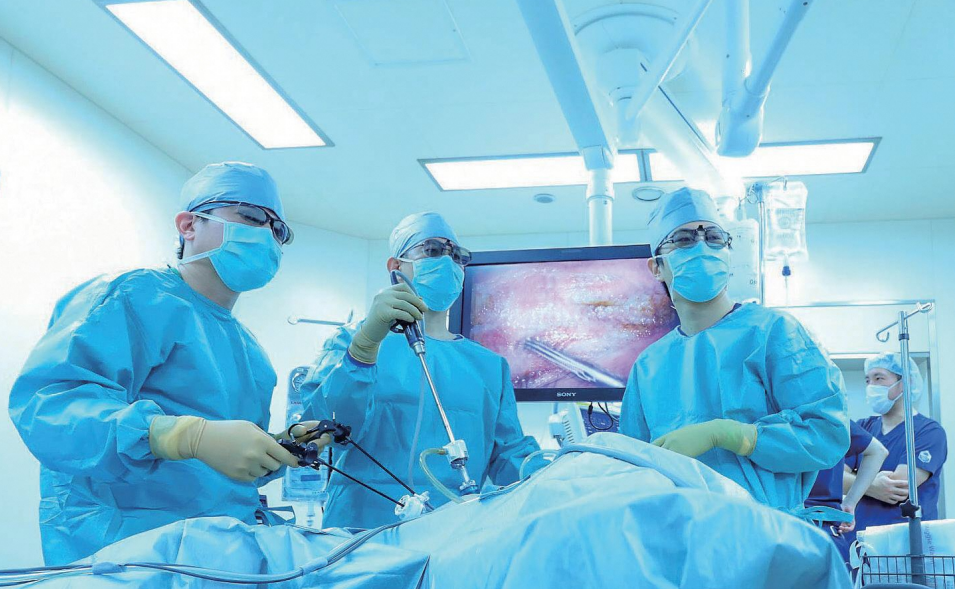
すずき えいいち / 新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部教授、新潟大学医歯学総合病院長、令和2年4月より現職。
日本呼吸器学会、日本結核・非結核性抗酸菌症学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会功労会員、新潟県医師会理事、新潟県健康づくり財団専務理事、新潟医学振興会専務理事、地域医療構想アドバイザー

魚沼基幹病院は、平成27年6月の開院から丸5年が経過しました。当時の魚沼の医療再編、すなわち当院の開院、そして「地域全体でひとつの病院」を合言葉にした医療連携により、地域で完結できる医療は着実に前進しています。この医療再編は、まさに今、国、県、地域で議論されている地域医療構想を先取りしたものに相当します。当院としては、今後も当院の使命である高度医療、三次救急の提供にさらに邁進します。一方で、当初の構想からまだまだ実現できていないこともあり、将来を見据えたさらなる医療の再々編の議論(地域医療

構想調整会議)も必要と感じています。魚沼基幹病院長に就任して早1年になりますが、これまで当院が抱えてきた課題もようやく乗り越え、また、着任以来新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応に多くの労力を割かざるを得ませんでしたが、魚沼医療圏唯一の感染症指定医療機関として、スタッフの対応には素晴らしいものがあつたと感謝しています。今後、患者さんや職員の負担をより小さくするために、COVID-19へのさらなる対応を検討していきます。一方、6年目に突入した当院の新たな取り組みとして、地域がん診療連携拠点病院

の申請や、「からだにやさしい治療センター」の設置、さらに課題であった新病棟の開設等を行ってきており、魚沼医療圏における当院の役割を着実に進めています。また、当院のもう一つの目標・使命である医学生、臨床研修医、専門医の教育・育成も推進する必要があり、総合診療マインドを持った専門医の養成を目指します。さらに、医師だけでなく看護職員等の育成、キャリアアップを図れる仕組みClinical Skill Up Center(仮称)も検討しており、魚沼の地で、広く医療人を育成できる病院になるべく、準備を進めています。

「からだにやさしい治療センター」設置のご案内

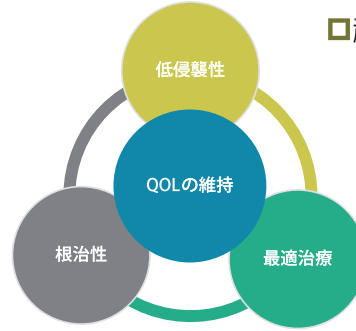


近年、創や体の負担が小さく、かつ必要な効果を得られる治療法（低侵襲治療）が広がってきています。魚沼基幹病院では、

開院当初から専門医による各種の低侵襲治療が盛んに施行されており、得意とする分野のひとつとなっています。今回、当院で

は低侵襲治療を一層推進すべく、「からだにやさしい治療センター」を開設いたしました。当センターでは、腹腔鏡や胸腔鏡を使用した低侵襲手術のみならず、早期癌に対する内視鏡的治療や、血管・臓器に対してのカテーテル治療、放射線治療など、多種の低侵襲治療を行うことができます。患者さんの状態に応じて多様な治療法を組み合わせ

ることで、より体の負担を抑え、かつ効果を高く保った治療を提供できると考えています。「からだにやさしい治療センター」は、当院外来の患者さんはもとより、かかりつけ医からの紹介や、セカンドオピニオン外来などで受診可能です。初めて受診される場合は原則として紹介状と事前予約が必要となります。詳しくは当院ホームページをご覧ください。



□超高齢社会に即した低侵襲治療の積極適応
根治性を担保しつつ患者さんのQOLを確保
フレイル状態や寝たきりの回避

□診療科横断的な治療体制
治療手段の柔軟性を確保
患者さん毎の最適な治療バランスの確保

□高度医療と地域医療の両立
地域医療の魅力の再発信
意欲的な医師の確保・育成

地域がん診療連携拠点病院指定を見据えた取り組み



がん診療連携拠点病院とは、全国どこでも質の高いがん医療を受けることができる「がん医療水準の均てん化」のため、厚生労働大臣が指定する医療機関です。新潟県内ではこれまで7か所の医療機関が指定され、専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援および情報提供などが行われています。

魚沼基幹病院は、魚沼圏域初のがん診療連携拠点病院の指定を目指し、院内ワーキングチームを立ち上げ、検討を進めてき

ました。令和2年度は、拠点病院としての組織体制を整備するため、緩和ケア室、がん相談支援センター、がん登録室を新設し、これらを統括する腫瘍センターを診療部に設置しました。10月には腫瘍センター主導で指定申請書を提出し、国の審査を待っているところです。

現在、拠点病院指定を見据え、更なる機能の充実に取り組んでおります。例えば、地域の医療従事者が参加する合同のカンファレンスを毎月開催し、がん医療に関する情報を収集し共有することとしました。また、がん医療に携わる医療従事者を対象とした研修会も企画しております。

診療面では、緩和ケア外来を新設し、がん患者・家族の精神的・身体的なサポートを始めました。がん相談支援センターでは、療養生活・就労に関する相談を受け付け、一般的ながんの治療・予防・検診などに関する情報提供を行なってまいります。



令和3年度臨床研修医3名!

2年間マッチングのなかった臨床研修ですが、令和3年度に向けて3名のマッチ者が出ました。超高齢社会先進地域で、基本的な診療能力を備えたジェネラリストを育成します。

当院における感染対策!

地域内においても新型コロナウイルス感染症の発生がみられるようになってきました。当院は感染症指定医療機関であることから、患者さんの受け入れを行っています。新型コロナウイルス感染症対策はもちろんのこと、当院では、その他の感染症からも患者さん、職員を守るよう、平常時からの感染対策を大切にしています。(ひとからひとへうつる感染症は新型コロナウイルスだけではありません)。

例えば、今では当たり前に行われるようになった手指消毒。当院ではいつでもだれでもすぐに手指消毒が実施できるよう、擦式アルコール製剤を使用しやすい場所に設置しています。またすべての手洗い場には

清潔に管理されたハンドソープやペーパータオルを設置し手洗いができる環境も整備しています。ちなみに、職員は患者さんに接触する前後に手指衛生ができるよう、アルコール製剤を持ち歩いています。また、患者さんや職員がよく触れる「高頻度接触表面」について、汚れを取るのみではなく消毒も同時に実施し、環境衛生に努めています。

これらは、新型コロナウイルス感染症が流行する前より実施している対策です。新型コロナウイルス感染症だから感染対策をしっかりするのではなく、平常時より病院全体で感染対策に取り組んでいますので、安心して病院に来院していただければと思います。

看護師確保に向けた取り組み



◀看護部サイトによる情報発信はこちら

私たちは、安全・安心で温かな看護の提供を目指しています。

魚沼基幹病院看護部では、「地域の方々へ信頼されるよう、安全・安心で温かな看護の提供を目指します。」を理念に掲げ、ひとりひとりがチーム医療のキーパーソンとして活躍しています。

魚沼地域の医療ニーズの支え手として、私たちとともに歩んでくれる看護職員を求めています。

お家からプチ見学

看護部専用サイトでは、教育制度、病棟紹介、実際に働く先輩の声等の情報をアップしています。また、看護部紹介動画を新たに作成したことで、一緒に働く仲間達の雰囲気をお伝えできるようになりました。この機会に是非、あなたのPC・スマホから、私たちの看護部を見に来てください。

魚沼地域の医療と介護を支える大切な仕組みです

大人から子供まで うおぬま・米ねっと

加入無料



「うおぬま・米ねっと」は、魚沼地域（十日町市・魚沼市・南魚沼市・湯沢町・津南町）の病院、診療所、調剤薬局や介護施設などをネットワークで結び、患者さんの診療情報と介護情報を共有する仕組みです。検査結果やお薬の情報など、参加機関同士で共有し、診療等に活用します。また緊急搬送時には、これまでの記録を参照し適切な準備をして到着を待つことができます。加入については是非ご検討ください。

【申込書】病院や市役所、町役場に加入申込書がありますので、各窓口へ提出するか、下記の事務局まで郵送をお願いします。

【お問合せ先】NPO法人 魚沼地域医療連携ネットワーク協議会（うおぬま・米ねっと事務局）〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4132番地 魚沼基幹病院内

電話：025-788-0485（平日8時30分～17時）

メール：iryoutaisaku@soleil.ocn.ne.jp

申込み方法
お問い合わせ